

1. 科目名（単位数）	薬理学概説（薬物乱用防止を含む）（2 単位）		3. 科目番号	EDHE2319
2. 授業担当教員	根岸 祥子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表		5. 開講学期	春期（王子） 秋期（池袋）
6. 履修条件・ 他科目との関係	「解剖生理学」の履修後、または履修中が望ましい。			
7. 講義概要	近年、医学の発展に伴って、多くの新しい医薬品が開発されてきた。それらの薬の効果や副作用は、人によって異なることも明らかになってきた。この授業では、 ●薬の有効性と毒性の発現の関係、薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機構等について理解する。 ●薬物乱用問題は社会秩序の根幹に関わる重大な問題である。アルコール、ニコチン、カフェインを含む依存性薬物（覚せい剤・コカイン、麻薬性鎮痛薬、有機溶剤、鎮静催眠薬、大麻、幻覚薬、危険ドラッグなど）の特徴、およ薬物乱用に起因する医学的・社会的弊害について学ぶ。 ●薬物の誤用、悪用の問題、サプリメントの有効性の真偽について学ぶ。			
8. 学習目標	以下について学び、理解を深め、説明できるようになることを学習目標とする。 1. 薬の有効性と毒性（副作用）の発現の関係を学ぶ。 2. 薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機序について学ぶ。 3. 薬の管理、関連法規について学ぶ。 4. 代表的な疾病と治療薬について学ぶ。 5. 薬物乱用、悪用、誤用の防止について考え、理解を深める。 6. サプリメントの使用の是非について考え、理解を深める。			
9. アサイメント （宿題）及びレポート課題	1. 薬物関連の最新情報（効果、作用機序、副作用など）を調べ、レポートを提出する。詳細および提出時期は授業内で発表。 2. 授業ごとにまとめのレポートを提出する			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】吉岡充弘ほか『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学』第 15 版 医学書院 2022 【参考書】木澤靖夫監修『いちばんやさしい薬理学』成美堂出版 2022 柳田俊彦編『薬の基本とはたらきがわかる薬理学』羊土社 2023			
11. 成績評価の基準と 評定の方法	○成績評価の基準 1. 用量－効果相関を基に、人体と化学物質（薬物）との相互関連について理解しているか。 2. 学校現場、家庭で使用している医薬品の作用について理解しているか。 3. 薬物乱用の概念を理解し、乱用防止策のビジョンを持てるか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加（授業態度、発言） 30% 2. 課題レポート・発表 30% 3. 期末試験 40%			
12. 受講生への メッセージ	1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 口頭発表の方法を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンの目的外使用を禁止します。 10. 本学の規程によって、3/4 以上の出席が確認されない場合は単位の修得を認めません。			
13. オフィスアワー	初回授業で通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	薬理学とは何か	事前学習	教科書 pp. 4～14 を読み、薬理学とは何かを考える。	
		事後学習	薬物の使用目的をまとめる。	
第 2 回	医薬品に関する法律、新薬開発、処方薬と市販薬	事前学習	教科書 pp. 54～63 および pp. 327～335 を読み、概要を理解する。	
		事後学習	医療用医薬品と一般用医薬品の違いについてまとめる。またジェネリック医薬品について理解する。	
第 3 回	薬の効果発現（用量－効果相関、吸収・分布・代謝・排泄、効果器と受容体）、投与方法の違い	事前学習	教科書 pp. 16～54 を読み、概要を理解し疑問点をまとめる。	
		事後学習	薬物の吸収・分布・代謝・排泄および投与方法についてまとめる。	
第 4 回	感染症と抗感染症薬（抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬）	事前学習	教科書 pp. 68～101 を読み、病原体の種類とその感染症薬の違いを理解する。	
		事後学習	抗菌薬、合成抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の作用機序・範囲と副作用についてまとめる。	

第 5 回	消毒薬	事前学習	教科書 pp. 306～312 を読み、消毒薬の種類を把握しておく。
		事後学習	各種病原体に有効な消毒薬とヒトへの影響についてまとめる。
第 6 回	アレルギーと炎症の治療薬（ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬）	事前学習	教科書 pp. 130～140 を読み、アレルギー反応と炎症の発現機序を理解する。
		事後学習	アレルギーおよび炎症の予防・緩和薬の作用機序、副作用をまとめる。
第 7 回	呼吸器系に作用する薬物（気管支拡張薬、鎮咳薬、呼吸促進薬）	事前学習	教科書 pp146～151 を読み、末梢神経による情報伝達を理解するとともに、240～244 を読み、喘息の原因と症状を理解する。
		事後学習	呼吸器系疾患、特に気管支喘息に有効な薬剤と、その副作用についてまとめる。
第 8 回	中枢神経に作用する薬（鎮静催眠薬）	事前学習	教科書 pp166～168 を読み、中枢神経の構造と機能を理解する。
		事後学習	抗不安薬、催眠薬の種類と作用メカニズムについて理解する。
第 9 回	鎮痛薬（解熱鎮痛薬、麻薬性鎮痛薬、片頭痛治療薬）	事前学習	教科書 p. 140、p115 および pp. 189～193 を読み、痛みの発現機序について理解する
		事後学習	痛みの緩和に有効な薬剤の作用機序をまとめる
第 10 回	保健室にある薬（薬理作用と使用上の注意点）	事前学習	第 1 回～第 9 回の授業内容を復習する。
		事後学習	保健室にある代表的な薬剤と、その使用目的について、またディスカッションした内容についてまとめる。
第 11 回	薬物依存・乱用（興奮系薬物・抑制系薬物・幻覚系薬物）	事前学習	教科書 p. 54 および事前配付資料を読み、薬物使用の有益性と危険性について理解する。
		事後学習	薬物乱用の人体・社会に及ぼす悪影響について、自分の考えを含めてまとめたレポートを提出する。
第 12 回	薬物乱用防止教育の実践	事前学習	薬物乱用防止教材の使用法をマスターする。
		事後学習	小学生・中学生を対象とした、薬物乱用防止教育の実践企画を作成する
第 13 回	アルコール・飲酒	事前学習	事前配布資料を読み、お酒の中のアルコール量を把握しておく
		事後学習	脳機能に及ぼすアルコールの影響から、未成年者の飲酒の問題、成人に対する功罪をまとめる。
第 14 回	ニコチン・喫煙	事前学習	事前配布資料を読み、タバコやタバコの煙に含まれる成分を把握しておく。
		事後学習	喫煙の急性・慢性の影響についてまとめる。
第 15 回	カフェイン/喫茶・漢方薬・サプリメント	事前学習	事前配付資料および教科書 pp. 298～304 を読んで、病態（証）と漢方薬の処方を理解する。
		事後学習	カフェインの功罪、幼児や妊婦への影響、漢方薬・サプリメントの有効性の真偽を考察する。
期末試験			